

穂別博物館首長竜資料を用いた研究が 日本古生物学会で優秀ポスター賞を受賞



ポスター賞受賞者 左から林先生、花井さん、
佐藤先生

花井智也さん（東京大学大学院 修士課程学生）らによる日本古生物学会第164回例会（豊橋市自然史博物館）での学会ポスター発表が優秀ポスター賞を受賞しました。

この研究は首長竜の肋骨を切断・研磨し、その断面で微細な骨組織を観察し、それらの組織の特徴から首長竜の生物学的側面を明らかにしたものです。首の長い首長竜には先行研究がありましたが、首の短い首長竜にはそうした研究例がほとんどありませんでした。そこで、穂別博物館の資料（HMG-357、ホッピーだより No. 348 でも紹介）を用いて研究を進めた結果、骨化石には生きていた頃の組織が残されており、それら情報から首の短い首長竜の生態を明らかにしました。この研究では、首の短い首長竜は首の長いものよりも活発に遊泳していたと推定されました。

今回の研究でこうした化石の内部にも生きていたときの情報が大量に残されていることが明らかになりました。同様の海生爬虫類（首長竜・モササウルス・ウミガメ類など）化石は、穂別博物館に多数収蔵されており、その質量は日本有数といわれています。世界的にも注目されている化石骨の組織学研究に穂別博物館の資料が今後も大きな役割を果たすことが期待されています。

花井智也（東京大学大学院）・林昭次（大阪自然史博）・佐藤たまき（東京学芸大）．ポリコティルス科首長竜類の肋骨の組織学的研究．日本古生物学会第164回例会．2015年1月31日，豊橋市自然史博物館，ポスター発表．



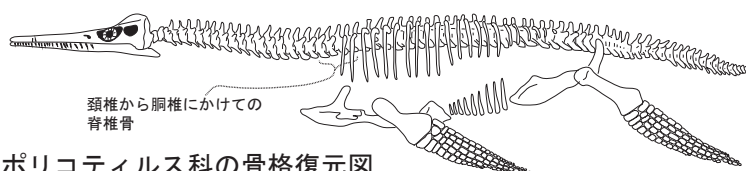
頸椎から胴椎にかけての脊椎骨



切断・研磨した左肋骨

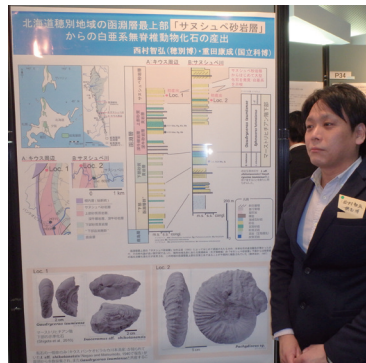
10 cm

研究の対象とした首の短い首長竜ポリコティルス科標本
穂別博物館収蔵資料 HMG-357



頸椎から胴椎にかけての
脊椎骨

ポリコティルス科の骨格復元図



西村智弘（徳別博物館）・重田康成（国立科学博物館）. 北海道徳別地域の函淵層最上部「サヌシユペ砂岩層」からの白亜系無脊椎動物化石の産出. 日本古生物学会第 164 回例会, 豊橋市自然史博物館, 2015 年 1 月 31 日, ポスター発表

<http://www.town.mukawa.lg.jp/2621.htm>



→新設

また、調査・研究中のハドロサウルス科恐竜についてのページを追加しました。

穂別町立博物館研究報告、むかわ町立穂別博物館研究報告
(全論文目録掲載 一部論文 pdf 掲載)
穂別博物館関連研論文 など 学芸員

学芸員 西村智弘

開館時間 9:30~17:00 (最終入館 16:30)

入館料 個人 / 小～高校生：100 円

大人 300 円

団体 / 小～高校生：50 円

大人 200 円

※団体は 10 人以上 ※小学生未満は無料

開館スケジュール

2015 年 4 月							
日	月	火	水	木	金	土	
5	6	7	8	9	10	11	4
12	13	14	15	16	17	18	18
19	20	21	22	23	24	25	25
26	27	28	29	30			

休館日

